

InstallShield 2008

2007 年 5 月 23 日

[はじめに](#) | [重要な情報](#) | [新機能](#) | [強化機能](#) |
[バグ修正](#) | [システム要件](#) | [既知の問題](#)

はじめに

また、InstallShield 2008 には多くの新機能および強化機能が含まれています。主な内容は次のとおりです。

- 基本の MSI プロジェクト用の新しいエンド ユーザー ダイアログ テーマ
- プロジェクトのビルド時に、製品の実行可能ファイルを含むすべてのファイルにデジタル署名ができる機能
- デジタル署名における .pfx ファイルのサポート
- セットアップ前提条件エディタにおけるオペレーティング システムの条件設定の拡張
- [リリース] ビュー、[カスタム アクション] ビュー、[シーケンス] ビューを含む、多数のビューにおけるユーザビリティ強化
- オートメーション インターフェイスの拡張
- インストール全体のビルドおよび実行を行わずに XML ファイルの変更をテストできる機能
- XML ファイルの変更における名前空間とエンコードのサポート

また、InstallShield 2008 では、次のような主要なテクノロジーがサポートされています。

- IIS 7.0
- SSL 証明書
- .NET Framework 2.0 (64 ビット バージョン)
- Windows Embedded CE 6.x
- DirectX 9.0c オブジェクト
- Windows Server "Longhorn"

InstallShield の本リリースにおいて、次の点で品質が向上されています。InstallShield 2008 では 275 以上のバグが修正されています。

リリース ノートのアップデートを含む InstallShield 2008 についての最新情報は、ナレッジベース記事「[Q112996](#)」をご覧ください。

[トップに戻る](#)

重要な情報

ターゲット システムにおける Windows 9x、Windows NT 4、および Windows Me のサポートの終了

InstallShield では、今回のリリースより、Windows 9x、Windows NT4、および Windows Me システムのためのインストールを作成することができなくなりました。これらのオペレーティング システムを使用しているエンドユーザーが InstallShield 2008 でビルドされたインストールを実行しようとしたときに、エンドユーザーがレガシー オペレーティング システム上でインストールを実行するのを防ぐ起動条件がプロジェクトに含まれていない場合、予期しない結果が発生する可能性があります。

レガシー オペレーティング システムのサポートは中止になりましたが、これらのオペレーティング システムをターゲットとする以前のバージョンの InstallShield で作成されたプロジェクトがまだ存在することは十分考

られます。これらのプロジェクトを **InstallShield 2008** にアップグレードしたとき、レガシー オペレーティング システムへのリファレンスは削除されません。そのため、オペレーティング システムの一覧が表示される箇所ではすべて、**InstallShield** インターフェイスで [常にレガシー プラットフォームを表示する] チェック ボックスが表示されます。このチェック ボックスは、**InstallShield** で表示されるオペレーティング システム一覧で、常にレガシー オペレーティング システムを表示するかどうかを判別します。このチェック ボックスを選択した場合、レガシー オペレーティング システムが選択されているかどうかが表示され、ここでサポートされていないプラットフォームへのリファレンスをすべて削除することができます。このチェック ボックスは、例えば **InstallShield** の次の領域で表示されます：

- プロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページ (基本の MSI および **InstallScript MSI** プロジェクト)
- [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [プラットフォーム] タブ (**InstallScript** プロジェクト)

基本の MSI プロジェクトおよび **InstallScript MSI** プロジェクトでは、エンド ユーザーがレガシー システム上でインストールを実行するとメッセージを表示する起動条件を含めることができます。 **InstallScript** プロジェクトでは、これらのレガシー システムを確認して、それが存在する場合にメッセージを表示する **SYSINFO** 構造変数を使用する **InstallScript** コードを追加することができます。

[常にレガシー プラットフォームを表示する] チェック ボックスは、**InstallShield** インターフェイス全体の設定です。このチェック ボックスを選択した場合、選択したときの **InstallShield** プロジェクトの種類および場所にかかわらず、コンピュータで開いているすべてのプロジェクトで、**InstallShield** の使用中、レガシー オペレーティング システム チェック ボックスが表示されます。同様に、このチェック ボックスをクリアすると、**InstallShield** のすべてのプロジェクトにおいてレガシー オペレーティング システム チェック ボックスが非表示となります。

プロジェクトの移行に関するアラート

InstallShield の初期のバージョンで作成されたプロジェクトを **InstallShield 2008** に移行する際に発生する可能性がある問題については、ナレッジベース記事「[Q113162](#)」をご覧ください。以下のセクションは概要です。

以前のバージョンの **InstallShield** で作成されたプロジェクトの移行

InstallShield 2008 を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行なわれる前に、例えば .765 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの **InstallShield** でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .765 を取り除いてください。 **InstallShield 2008** プロジェクトを以前のバージョンの **InstallShield** で開くことはできませんので注意してください。

次の **InstallShield** バージョンで作成した既存プロジェクトを **InstallShield 2008** に移行することができます：**InstallShield 12** 以前、**InstallShield DevStudio**、**InstallShield Professional 7** 以前、および **InstallShield Developer 8** 以前。 **InstallShield MultiPlatform** または **InstallShield Universal** で作成されたプロジェクトを **InstallShield 2008** に移行することはできませんので、ご注意ください。

COM 抽出

今回より、**InstallShield** を使用して COM サーバーから COM 情報を抽出すると、データは **TypeLib** テーブルではなく **Registry** テーブルに書き込まれます。マイクロソフト社は **TypeLib** テーブルを使用しないことを強く推奨しています。詳しくは、MSDN Web サイトの [TypeLib Table](#) トピックを参照してください。

デフォルトで、ビルド時に未使用のディレクトリを .msi ファイルから自動的に削除する

InstallShield 12 以前のバージョンを使って作成した基本の MSI プロジェクト、**InstallScript MSI** プロジェクト、またはマージ モジュール プロジェクトを **InstallShield 2008** にアップグレードすると、[リリース] ビューの [ビルド] タブに新しく追加された "未使用のディレクトリを保持する" 設定は、デフォルトで [いいえ] に設

定されています。したがって、Directory テーブルの Directory 列に一覧表示されているディレクトリが .msi ファイル内の既知の場所で参照されない場合、ビルド時に InstallShield が作成する .msi ファイルの Directory テーブルからそのディレクトリは削除されます。基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトで、これはマージ モジュールがマージされてから削除されますが、.msi ファイルに存在するディレクトリのみが削除の対象となります。したがって、マージ モジュールの Directory テーブルに新しい未使用のディレクトリが含まれている場合、そのディレクトリはインストールに追加されます。

リリースの "キャッシュ パス"設定における新しいデフォルト値

今回より、[リリース] ビューの "キャッシュ パス" 設定における圧縮リリースのためのデフォルト値が [[LocalAppDataFolder]Downloaded インストール] に設定されています。以前のデフォルト値 [[WindowsFolder]Downloaded インストール] は、ロックされたシステムで使用できないことがあります。プロジェクトを InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 に移行したとき、"キャッシュ パス" 設定は自動的に変更されません。このため、この値を変更したほうが良い場合があります。"キャッシュ パス" 設定を変更するには、リリース ウィザードの [ローカル マシン] パネルを利用します。

セットアップ前提条件の Windows Server 2003 条件および 64 ビット Windows XP 条件

Windows Server 2003 および 64 ビット Windows XP のオペレーティング システムのバージョン番号は、どちらも 5.2 です。そのため、InstallShield 12 で作成され、かつ Windows Server 2003 を必要とする前提条件を 64 ビット Windows XP システムにインストールすることはできませんが、InstallShield 12 で作成され、かつ Windows XP を必要とする前提条件は、64 ビット Windows XP システムにインストールすることはできません。

この問題を解決するため、強化された InstallShield 2008 セットアップ前提条件エディタでは、ターゲット システムがワークステーション、サーバー、またはドメイン コントローラのいずれかである必要があるかどうかを指定できるようになりました。

Windows Server 2003 要件または 64 ビット Windows XP 要件を含む既存の前提条件については、これを InstallShield 2008 のセットアップ前提条件エディタで開き、[条件] タブで必要に応じて条件を更新することで、問題を回避することができます。[セットアップ要件を実行するオペレーティング システムを選択します] ボックスで、適切なオペレーティング システム要件を選択します。この処理を適切に行なうことで、新しい "製品 (OS) タイプ" 設定がワークステーション、サーバー、またはドメイン コントローラ値に正しく設定されます。

InstallScript One-Click Install インストール

Setup.exe が InstallScript One-Click Install インストールのセットアップ プレーヤーとして使用されなくなりました。代わりに Setup.ocx が今回より使用されます。Setup.ocx ファイルをインストールに含めるには、[リリース] ビューに新しく追加された "ClickOnce Install の生成" 設定が [はい] に設定されている必要があります。InstallScript プロジェクトを InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 にアップグレードするとき、[リリース] ビューの "デフォルト Web ページの作成" 設定が [はい] に設定されていると、アップグレード中 "ClickOnce Install の生成" 設定は自動的に [はい] に設定されます。反対に、"デフォルト Web ページの作成" 設定が [いいえ] に設定されていて、インストールをインターネット上で配布する予定の場合は、プロジェクトをアップグレードしたあと、"ClickOnce Install の生成" 設定を手動で [はい] に設定する必要があります。

オートメーション インターフェイス

InstallShield のオートメーション インターフェイスまたはスタンドアロン ビルドを使用する場合、既存のコードを更新して、新しい ProgID を反映させてください。IswiAuto14.ISWiProject または SAAuto14.ISWiProject.

"[保存オプション] ダイアログの表示" 設定が [リリース] ビューから削除されました。したがって、この設定に対応する WebSaveOptionsDlg プロパティが、オートメーション インターフェイスの ISWiRelease オブジェクトで使用できなくなりました。

基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクト用のパッチの作成

今回のリリースより、InstallShield はパッチの作成に Patchwiz.dll のバージョン 3.1 を使用します。

FLEXnet Connect 6.1 マージ モジュール

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトの FLEXnet Connect マージ モジュールで使用されている DWUSVERSION プロパティが、FLEXnet Connect 6.1 リリースで変更されました。完全な詳細情報は、ナレッジベースの記事「[Q113086](#)」を参照してください。

Visual Studio の統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき、InstallShield Premier Edition または InstallShield Professional Edition のいずれかの 1 パージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

Update Service から FLEXnet Connect への名前変更

Update Service は、新しく FLEXnet Connect に名前が変更されました。Update Service ビューは、今回より [アップデート通知] ビューという名前に変わりました。

DemoShield のサポート

DemoShield は今後、マクロヴィジョンまたはその他の公認販売代理店で販売されません。サポートも終了しました。このため、今後 InstallShield に DemoShield は統合されません。

Windows Vista 検証スイートにおける変更

インストールが Windows Vista ロゴ プログラムのインストール要件を満たしているかどうかを判別するときに使用する検証スイートの名前が変更されました。

- Windows Vista Quality 品質検証スイート (および InstallShield ICE) の新名称は *Certified for Windows Vista 検証スイート (および InstallShield ICE)* です。
- マージ モジュール品質検証スイート (および InstallShield ICE) の新名称は *Certified for Windows Vista マージ モジュール検証スイート (および InstallShield ICE)* です。

また、3 つの InstallShield ICE が InstallShield ベスト プラクティス スイートに移されました：

- ISICE13 (.hlp ファイルまたは WinHelp ランタイム ファイルが含まれていないことを検証します) が ISBP17 になりました。
- ISICE14 (古い形式の API がインポートされないことを検証します) が ISBP18 になりました。
- ISICE15 (使用されていない API がインポートされないことを検証します) が ISBP19 になりました。

これらの検証ツールは、Certified for Windows Vista プログラムの要件ではないために移動されました。

[トップに戻る](#)

新しい機能

基本の MSI プロジェクト用の新しいエンド ユーザー ダイアログ テーマ

ダイアログ テーマとは、エンドユーザー ダイアログに統一感のとれた個性的な印象を与えることができる、あらかじめ定義されている 1 セットのイメージです。今回より、ボタンをクリックするだけで、プロジェクトに提供されているテーマから 1 つを選んで、Setup.exe 初期化ダイアログを含む、プロジェクトで使用されているすべての内部および外部ダイアログに適用することができます。それぞれのダイアログは [ダイアログ] ビュー内から簡単にプレビューすることができ、選択したテーマがどのように見えるかを実際に確認することができます。

一部のテーマは、InstallShield の Premier Edition と Professional Edition の両方で提供されていますが、Premier Edition のみで提供されているものもあります。

デジタル署名の強化

ビルド時に、製品の実行可能ファイルを含むインストール内のすべてのファイルにデジタル署名が可能になりました。また、今回より、デジタル署名に **personal information exchange** ファイル (.pfx) が使用できるようになりました。この機能は、次のすべてのプロジェクトの種類でサポートされています: 基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、InstallScript オブジェクト、マージ モジュール、Web。

新しい [リリース] ビューの [署名] タブでは、InstallShield がファイルに署名するときに使用するデジタル署名に関する情報 (証明機関より付与されたデジタル署名ファイルなど) を指定します。[署名] タブでまた、デジタル署名をするインストール内のファイルを指定することもできます。リリース ウィザードを使って、すべてのデジタル署名情報を指定することもできます。

署名に .pfx ファイルを指定すると、InstallShield でファイルが署名される時 SignTool.exe が使用されます。 .spc ファイルと .pvk ファイルを指定すると、ファイルの署名に Signcode.exe が使用されます。 .pfx ファイルのほうがより頻繁に利用されます。これは、.pfx ファイルが、より多くの異なる環境 (ロックされたビルド マシンなど) で動作するためです。InstallShield でデジタル署名パスワードを指定するとき、.pfx ファイルを使用している場合、パスワードのプロンプトは表示されなくなります。 .spc ファイルと .pvk ファイルを使用している場合は、パスワードのプロンプトが表示されることがあります。

InstallShield では、.pfx ファイルを使って、メディア ヘッダー ファイル (.hdr ファイル) に署名することはできません。 .hdr ファイルは、InstallScript プロジェクトの One-Click Install インストールに使用されます。このタイプのインストールには、次のいずれかを代替方法として検討することができます: (1) .pfx ファイルの代わりに .spc ファイルと .pvk ファイルをデジタル署名に使用する。(2) 圧縮インストールをビルドする (これにより、.pfx ファイルに署名ができるようになります)。

以前、InstallShield では、.msi ファイル、.hdr ファイル、Setup.exe ファイルのみ署名が可能でした。また、デジタル署名として指定できるのは .spc ファイルと .pvk ファイルのみで、.pfx ファイルを指定することはできませんでした。

この機能により IOB-000003166 とおよび IOC-000057680 が解決されました。

新しい InstallShield ベスト プラクティススイート (Premier Edition)

InstallShield には、InstallShield ベスト プラクティススイートという名前の 1 セットの検証ツールが含まれています。インストールがベスト プラクティス ガイドラインに違反している場合、このスイートの InstallShield ベスト プラクティス (ISBP) 検証ツールによって警告されます。

この機能は、基本の MSI、InstallScript MSI、MSI データベース プロジェクトで提供されています。

インターネットインフォメーションサービス (IIS) 7.0 と SSL のサポート

InstallShield には今回より IIS 7 のサポートも含まれています。

また、インストールに、Web サイトの SSL 証明書を含めることもできます。SSL サーバー証明書を含めることにより、ユーザーは Web サーバーの認証および Web コンテンツの有効性の確認を行うことができると共に、セキュリティで保護された接続を確立することができます。

この機能により IOC-000054593 が解決されました。

新しく追加された Microsoft .NET 前提条件

InstallShield には今回、基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトに追加することができる .NET 関連の新しい前提条件が多数含まれています。

- .NET Framework 2.0 (x64)
- .NET Framework 2.0 (x64) 言語パック
- .NET Framework 2.0 (IA64)
- .NET Framework 2.0 (IA64) 言語パック
- .NET Framework 3.0 (x64)

InstallScript プロジェクトに更新された Microsoft .NET オブジェクト

新たに更新された Microsoft .NET オブジェクトが、InstallShield で提供されています。このオブジェクトには、32 ビット、64 ビット x64、および 64 ビット Itanium バージョンを含む、バージョン 1.0 (SP3)、1.1 (SP1)、2.0、および 3.0 の .NET Framework のサポートが含まれています。オブジェクトにはまた、言語パックおよび、1.0 と 1.1 の最新サービス パックが含まれています。

このオブジェクトはまた、.NET オブジェクトを含む機能がインストールされたとき、.NET Framework のインストールを起動して、実行完了します。このオブジェクトを使用して .NET Framework を即座にインストールすることにより、その後にインストールされるファイルのインストールまたは構成で .NET Framework が必要になったときに、確実に使用できるようになります。

ダイアログ ボタンの UAC シールド アイコンのサポート (基本の MSI プロジェクト)

新規で作成した基本の MSI プロジェクトでは、インストールが Windows Vista システム上で実行されたとき、ReadyToInstall ダイアログの [インストール] ボタンに [ユーザー アカウント制御 (UAC)] シールド アイコンが表示されます。

また [ダイアログ] ビューを使って、基本の MSI ダイアログの任意のボタンにシールド アイコンを追加することもできます。Windows Vista システムで InstallShield を使用している場合、実行時と同じシールド アイコンがダイアログ エディタのボタンに表示されます。

LicenseAgreement ダイアログでエンドユーザーが EULA を最後までスクロールするのを必須にする機能

InstallShield では、エンドユーザーがマウスまたはキーボードを使ってスクロール可能な EULA コントロール内にあるエンドユーザー使用許諾契約 (EULA) テキストの終わりに到達するまで、LicenseAgreement ダイアログ上の [次へ] ボタンを無効にすることができます。

エンドユーザーはまた、[次へ] ボタンが有効にされる前に [ソフトウェア使用許諾契約に同意します] オプションを選択する必要があります。この動作は、InstallShield の以前のリリースと同じです。

デフォルトで、スクロール要件は LicenseAgreement ダイアログで提供されていません。この機能を利用するには、プロジェクトに WatchScroll という名前の Windows Installer DLL カスタム アクションを追加する必要があります。このカスタム アクションは EulaScrollWatcher.dll ファイルを呼び出します。また、[次へ] ボタンの Control 条件を変更し、イベントを Memo コントロールに追加する必要があります。詳しい手順については、InstallShield ヘルプ ライブラリを参照してください。

これは基本の MSI プロジェクトで提供されています。

Windows Embedded CE 6.x のサポート

今回より、インストールで Windows Embedded CE 6.x を具体的にターゲットすることができるようになりました。これは、基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、およびスマート デバイス プロジェクトに適用します。

さらに、Windows Mobile ウィザードを使って、すべての Windows Mobile デバイス インストールに対して XML 構成ファイルを指定できるようになりました。以前は、Smartphone デバイス インストールにしか、構成 XML ファイルを含めることができませんでした。

Windows Mobile 5.0 for Smartphone のサポート

今回より、インストールで Smartphone デバイス用 Windows Mobile 5.0 を具体的にターゲットすることができるようになりました。以前、インストールに Smartphone デバイス用 Windows Mobile 5.0 のサポートを含めるためには、Smartphone 2003 オプションを選択する必要がありました。これは、基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、およびスマート デバイス プロジェクトに適用します。

更新された DirectX 9.0c オブジェクト

InstallShield では、次の 2 つの DirectX 9.0c オブジェクトが提供されています: 基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトで提供されている Windows Installer ベースのオブジェクト、および InstallScript プロジェクトで提供されている InstallScript ベースのオブジェクト。これらの両方のオブジェクトは、32 ビット固有および 64 ビット固有のコンポーネントを含む、最新の DirectX 9.0c コアおよびオプションのコンポーネントをすべてインストールします。

また、基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI の DirectX 9 オブジェクト ウィザードにも一部変更が加えられました。このウィザードでは今回より、再配布可能ファイルを Disk1 フォルダに含めるか、または .msi ファイルにストリームするかを指定することができます。この変更により、圧縮インストールで DirectX 9 オブジェクトが使用できるようになりました。また、サイレントインストールでも今回より DirectX 9 オブジェクトが使用できるようになりました。

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトで、DirectX インストールを起動するカスタムアクションは Windows Vista システムで昇格された権限を使って実行できるように、[実行] シーケンスにスケジュールされ、遅延システム コンテキストで実行されます。

この機能により 1-G1RJL、IOC-000052412 および IOC-000055104 が解決されました。

DIFx 2.1 のサポート

InstallShield では、最新版の Driver Install Frameworks for Applications (DIFx) がサポートされています。この新しいバージョンには、マイクロソフトからの最新バイナリ ファイルが含まれているため、InstallShield で作成する基本の MSI プロジェクト、InstallScript プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトで使用することができます。この新しいバージョンは Windows Vista システムにインストールすることができます。InstallShield の以前のバージョンには、場合によって Windows Vista にインストールすることができなかった DIFx の以前のバージョンが含まれています。

この機能により IOC-000054803 が解決されました。

COM サーバーの 64 ビット自己登録のサポート (基本の MSI プロジェクト)

InstallShield では今回より、基本の MSI プロジェクトで、COM サーバーの 64 ビット自己登録がサポートされています。コンポーネントを 64 ビットとしてマークしてから、そのコンポーネントにファイルを追加したとき、そのファイルの [自己登録] チェック ボックスを選択して、インストール時の 64 ビット自己登録を有効にすることができます。InstallShield ではまた、動的にリンクされている COM サーバーの 64 ビット自己登録もサポートされています。

セットアップ前提条件エディタの拡張されたオペレーティング システム条件の設定

セットアップ前提条件エディタで、前提条件に条件を作成するとき、より詳しいオペレーティング システム要件に関する情報を指定できるようになりました。セットアップ前提条件エディタで前提条件の条件を追加または変更するときに表示される [前提条件設定] ダイアログ ボックスでは、定義済みのオペレーティング システムを選択することもできますし、カスタム オプションを選択することもできます。新しいカスタム オプションを使用して、プラットフォーム、メジャーとマイナー バージョン、プロセッサ アーキテクチャ (64 ビットまたは 32 ビット) およびサービス パックなどのオペレーティング システム要件の設定を構成することができます。ターゲット システムがオペレーティング システムの要件を満たさない場合、前提条件はインストールされません。

Windows Server "Longhorn" システムをターゲットする機能

InstallShield では、インストールの必要条件として Windows Server "Longhorn" を指定することができます。また、機能およびコンポーネントに Windows Server "Longhorn" 関連の条件をビルドすることができます。

Windows Vista と Windows Server "Longhorn" は、同じメジャー バージョン番号とマイナー バージョン番号を持つ点に注意してください。したがって、InstallScript を使って Windows Server "Longhorn" と Windows Vista を区別するには、SYSINFO.nOSProductType = VER_NT_WORKSTATION が、Windows Vista の場合は TRUE、Windows Server "Longhorn" の場合は FALSE であるかどうかを確認してください。

InstallScript プロジェクトに更新された Windows Installer オブジェクト

InstallScript プロジェクトの Windows Installer 3.x Engine オブジェクトは、今回より、64 ビットバージョンの Windows Installer 3.1 をサポートします。このオブジェクトはまた、Windows Installer オブジェクトを含む機能がインストールされたとき、Windows Installer のインストールを起動して、それを実行完了します。このオブジェクトを使用して Windows Installer エンジンが即座にインストールすることにより、その後インストールされるファイルのインストールまたは構成で Windows Installer エンジンが必要になったときに、確実に使用できるようになります。

.NET Compact Framework 2.0 SP1 のサポート

今回より、Windows Mobile ウィザードで .NET Compact Framework 2.0 を選択して、.NET Compact Framework 2.0 SP1 がシステム上に存在するとき、.NET Compact Framework 2.0 SP1 がプロジェクトに追加されるようになりました。.NET Compact Framework 2.0 SP1 は InstallShield Program Files フォルダ内の Support フォルダにインストールされるか、または追加される必要があります。

これは、基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、およびスマート デバイス プロジェクトに適用します。

新しい MSXML 6 SP1 セットアップ前提条件

InstallShield には今回より、基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトに追加することができる新しい MSXML セットアップ前提条件がいくつか含まれています。

- MSXML 6.0 SP1
- MSXML 6.0 SP1 (IA64)
- MSXML 6.0 SP1 (x64)

更新された InstallScript プロジェクト用の MSDE 2000 SP オブジェクト

InstallScript プロジェクト用の MSDE 2000 オブジェクトには、MSDE 2000 SP4 ファイルが追加されました。

ビルド時の警告を抑制する機能

InstallShield では、ビルド時の警告を抑制することができます。特定またはすべてのプロジェクトにおいて、使用しているマシンでリリースがビルドされたとき、特定の警告を抑制することができます。具体的な手順については、ナレッジベースの記事「[Q113176](#)」を参照してください。

この強化により IOB-000003662 および IOC-000005557 が解決されました。

FLEXnet Connect サポート

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトに FLEXnet Connect 6.1 または 5.x の再配布可能ファイルを追加することができます。InstallScript プロジェクトには、FLEXnet Connect 6.0 の再配布可能ファイルを追加することができます。

基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトの [アップデート通知] ビューで、プロジェクトに含める FLEXnet Connect のバージョンを選択することができます。バージョン 6.1、または [オプション] ダイアログ ボックスの [マージ モジュール] タブにある [マージ モジュールの場所] 領域で指定されている場所にインストールされている任意のレガシー バージョンを含めることができます。

[アップデート通知] ビューに、FLEXnet Connect 6.1 がサポートする新しい "ベンダー データベース" 設定が追加されました。

[トップに戻る](#)

強化機能

リリースにおけるユーザビリティの強化点

[リリース] ビューで、リリースの設定がカテゴリ別に複数のタブで再構成されました。

また、[リリース] ビュー内から "圧縮" 設定に、[圧縮] または [非圧縮] を選択できるようになりました。これまで、この設定の変更を行うには、リリース ウィザードを起動しなければなりません。カスタム圧縮の設定を指定する場合 (機能ごとに 1 つの .cab ファイル、またはコンポーネントごとに 1 つの .cab ファイル)、リリース ウィザードをこれまでどおり利用する必要があります。"圧縮" 設定は、基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、マージ モジュール プロジェクト、Web プロジェクトで利用することができます。

基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、マージ モジュール プロジェクト、および Web プロジェクトでは、[配布] ビューにあった設定は、[リリース] ビューの新しい [ポストビルド] タブに移されました。[ポストビルド] タブには、ビルド時にリリースをフォルダまたは FTP サイトに自動的に配布できるように構成できる設定があります。

基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、マージ モジュール プロジェクト、および Web プロジェクトで、新しい [配布] コマンドが、[リリース] ビューでリリースを右クリックしたときに表示されます。このコマンドを選択すると、リリースに関連するすべてのファイルが [ポストビルド] タブで指定された場所にコピーされます。InstallScript および InstallScript Object プロジェクトの場合、リリースは、ビルドされるたびに、自動的に [ポストビルド] タブで指定した場所 (複数可) にコピーされます。

この強化により IOC-000054427 が解決されました。

カスタム アクションとシーケンスにおけるユーザビリティの強化

[カスタム アクション] ビューと [シーケンス] ビューが [カスタム アクションとシーケンス] ビューという名前のビューに統合され、より強力な機能を提供できるようになりました。統合されたビューでは、ドラッグアンドドロップ編集およびコピー機能がサポートされています。

- 新しいカスタム アクションをシーケンスするには、[カスタム アクション] エクスプローラからそれを、[シーケンス] エクスプローラの下にあるシーケンス内の適切な位置までドラッグします。
- ダイアログ、標準アクション、またはカスタム アクションを、シーケンス内の異なる位置へ(または、あるシーケンスから別のシーケンスへ) 移動するには、それを元の位置から新しい場所へドラッグします。
- カスタム アクションを別のシーケンスへコピーするには、CTRL を押しながら、カスタム アクションを別のシーケンスへドラッグします。

また、シーケンスにスケジュールされている選択されたカスタム アクションのための "条件" 設定で、クリックして条件ビルダを起動することができる省略ボタン (...) が追加されました。

[カスタム アクションとシーケンス] ビューは、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、MSI データベース、トランスフォーム、および Web プロジェクトで使用できます。

[ファイルとフォルダ] ビュー、[レジストリ] ビュー、および [再配布可能ファイル] ビューにおけるユーザビリティの強化

[ファイルとフォルダ] ビューにおける強化内容は次のとおりです。

- [インストール先コンピュータのファイル] ペイン内でファイルを右クリックしてから、新しい [1 つ上のフォルダを開く] コマンドをクリックできます。Windows エクスプローラ ウィンドウが開き、右クリックして選択したファイルを含むフォルダが表示されます。
- [インストール先コンピュータのファイル] ペインで右クリックすると、新しい [追加] コマンドが利用できます。このコマンドを使うと [開く] ダイアログ ボックスが表示され、プロジェクトに追加するファイルを参照することができます。
- このビューの右上に、新しいリンク ([ソース ペインの表示] または [ソース ペインの非表示]) が追加されました。この新しいリンクを使うと、このビューの上部に表示される [ソース コンピュータのフォ

ルダ] ペインおよび [ソース コンピュータのファイル] ペインを表示または非表示に切り替えることができます。この 2 つのペインを非表示にして Windows エクスプローラ ウィンドウを開き、InstallShield 内に表示されている残りの 2 つのペインに Windows エクスプローラ ウィンドウから直接ファイルをドラッグアンドドロップすることができます。

[レジストリ] ビューの右上にも新しいリンク ([ソース ペインの表示] または [ソース ペインの非表示]) が追加されました。この新しいリンクを使うと、このビューの上部に表示される [ソース コンピュータのフォルダ] ペインおよび [ソース コンピュータのファイル] ペインを表示または非表示に切り替えることができます。

以下はまた、基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトの [再配布可能ファイル] ビューにおける 2 の強化点です:

- このビューの右側のペインに、左上のペインで選択されたマージ モジュール、オブジェクト、またはセットアップ前提条件に関する詳細が表示されます。このビューの右上にある [詳細の表示] または [詳細の非表示] リンクをクリックすると、この詳細ペインを表示または非表示に切り替えることができます。
- セットアップ前提条件の [詳細] ペインに、選択されたセットアップ前提条件に関する完全な情報が表示されます。この情報には、前提条件に構成されている条件、コマンドライン パラメータ、およびその他の情報が含まれます。

オートメーション インターフェイスの強化

オートメーション インターフェイスが、大幅に強化されました。

- **現在のプロジェクトを InstallShield 12 プロジェクトとして保存するための PropertySchemaVersion プロパティ値**—ISWiProject オブジェクトの PropertySchemaVersion プロパティに新しい epv120 値を使用すると、オートメーション インターフェイスを通して InstallShield 2008 プロジェクトを InstallShield 12 プロジェクト (.ism) として保存することができます。
- **CreateProject メソッドを使ったマージ モジュール プロジェクトの作成**—ISWiProject オブジェクトに CreateProject メソッドを使用して、マージ モジュール プロジェクトを作成することができます。以前、このメソッドは、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、InstallScript オブジェクト プロジェクトでのみサポートされていました。
- **ダイナミック ファイル リンクの構成をサポート**—オートメーション インターフェイスに、ダイナミック ファイル リンクのための新しいオブジェクトと新しいコレクションが追加されました。また、ISWiComponent オブジェクトに、ダイナミック ファイル リンクのコレクションを取得 (ISWiDynamicFileLinkings) でき、かつコンポーネントのダイナミック ファイル リンクの追加 (AddDynamicFileLinking) と削除 (RemoveDynamicFileLinking) を行なうことができる 2 つの新しいメソッドとプロパティが追加されました。
- **パス変数の構成をサポート**—オートメーション インターフェイスに、プロジェクトでパス変数を構成するための新しいオブジェクトとコレクションが追加されました。また、ISWiProject オブジェクトに、パス変数のコレクションを取得 (ISWiPathVariables) でき、かつパス変数をプロジェクトに追加 (AddPathVariable) し、削除 (DeletePathVariable) することができる 2 つの新しいメソッドとプロパティが追加されました。
- **文字列テーブル エントリの変更をサポート**—オートメーション インターフェイスに、プロジェクトで言語と文字列エントリを構成するための新しいオブジェクトとコレクションが追加されました。また、ISWiLanguage オブジェクトに、文字列エントリのコレクションを取得 (ISWiStringEntries) でき、かつ文字列エントリをプロジェクトに追加 (AddStringEntry) し、削除 (DeleteStringEntry) することができる 2 つのメソッドとプロパティが追加されました。また、ISWiProject オブジェクトに、現在のプロジェクトに含まれている言語のコレクションを取得する新しいプロパティ (ISWiLanguages) が追加されました。
- **環境変数の構成をサポート**—オートメーション インターフェイスに、環境変数のための新しいオブジェクトと新しいコレクションが追加されました。また、ISWiComponent オブジェクトに、環境変数のコレクションを取得 (ISWiEnvironmentVars) でき、かつコンポーネントの環境変数の追加 (AddEnvironmentVar) と削除 (RemoveEnvironmentVar) を行うことができる 2 つの新しいメソッドとプロパティが追加されました。

- 会社名、会社の URL、および会社の電話番号を設定する **ISWiProject** オブジェクトのプロパティ—ISWiProject オブジェクトに [一般情報] ビューの設定の値を指定することができる新しいプロパティ (CompanyName、CompanyURL、および CompanyPhone) が追加されました。
- ファイルにデジタル署名するための **ISWiRelease** オブジェクトのプロパティ—ISWiRelease オブジェクトに追加された新しいプロパティ (CertificatePassword、SignFiles、SignFilesExclude、SignFilesInclude、および SignSignedFiles) を使用して、ビルド時にリリース用のファイルを行うデジタル署名用の設定を構成することができます。
- **Directory** テーブルに未使用のディレクトリを保持するかどうかを指定するための **ISWiRelease** オブジェクトのプロパティ—ISWiRelease オブジェクトに新しく追加された KeepUnusedDirectories プロパティを使用して、このリリースをビルドしたとき InstallShield が .msi ファイルの Directory テーブルから未使用のディレクトリを削除するかどうかを指定することができます。
- **.NET Framework** のインストール/更新のための再起動を遅延するかどうかを構成するための **ISWiRelease** オブジェクト プロパティ—ISWiRelease オブジェクトに追加された新しい DotNetDelayReboot プロパティを使用して、インストールが完了するまで、ターゲット システム上の .NET Framework のインストールまたは更新に関連付けられた再起動を遅延するかどうかを指定できます。
- エンドユーザーに **.NET Framework** をインストールするかどうかを質問するメッセージ ボックスを表示するかどうかを指定するための **ISWiRelease** オブジェクト プロパティ—ISWiRelease オブジェクトに、新しい DisplayDotNetOptionDialog プロパティが追加されました。 このプロパティを使用して、エンドユーザーが .NET Framework のインストールが必要かどうかを指定できるメッセージ ボックスを実行時に表示するかどうかを指定できます。
- ビルド時の配布オプションを構成するための **ISWiRelease** オブジェクトのプロパティ—ISWiRelease オブジェクトに追加された新しいプロパティを使用して、ビルド時にリリースをフォルダまたは FTP サイトに自動的に配布するための設定を構成することができます。 新しいプロパティは DistributeToLoc、DistributeToURLLoc、DistributeToURLUserName、DistributeToURLPassword、および DistributeAfterBuild です。
- **ISWiSequence** コレクションの新しい **RemoveSequenceRecord** メソッド—ISWiSequence コレクションに追加された新しい RemoveSequenceRecord メソッドを使用して、シーケンスからアイテムを削除することができます。
- 基本の **MSI** プロジェクトにおけるサポート ファイルの追加と削除—オートメーション インターフェイスは今回より、基本の MSI プロジェクトで ISWiSetupFile オブジェクトと ISWiAdvancedFile オブジェクトをサポートします。 これらのオブジェクトには、今回より基本の MSI プロジェクトで利用できるメソッド (AddSetupFile、DeleteSetupFile、AddAdvancedFile、および DeleteAdvancedFile) が含まれています。 以前、これらのオブジェクトとメソッドは、InstallScript、InstallScript MSI、InstallScript オブジェクト プロジェクトでのみ提供されていました。

この強化により IOA-000027207、IOA-000027208、IOA-000027801、IOC-000041546 および IOC-000052798 が解決されました。

[XML ファイルの変更] ビューの強化

InstallShield で、XML ファイルの変更のサポートが拡張されました。

- 今回より、インストール全部をビルドして実行する手間をかけずに、[XML ファイルの変更] ビューでプロジェクトで構成された XML ファイルの変更のみをテストすることができます。
- [XML ファイルの変更] ビューは今回より、XML ファイルで名前空間をサポートします。
- InstallShield では、XML ファイルの XML エンコードを指定することができます。

より速くなった [ファイルとフォルダ] ビュー、ダイレクト エディタおよび文字列テーブル エディタ

プロジェクトに多数のファイルが含まれているとき、InstallShield の [ファイルとフォルダ] ビューで、以前のリリースに比べファイルがより速く表示されるようになりました。 また、InstallShield のダイレクト エディタと文字列テーブル エディタでも、レコードのロード時間が短縮されました。

この強化により IOA-000029812 および IOC-000053957 が解決されました。

強化された InstallScript プロジェクトにおけるユーザー アカウント制御のサポート

InstallScript プロジェクトで、[リリース] ビューの Setup.exe タブに "必要実行レベル" 設定が追加されました。この設定を使って、インストールの Setup.exe ファイルが Windows Vista プラットフォーム上でインストーラ (セットアップ ランチャ) を実行するために必要な最低権限レベルを指定できます。InstallShield が、必要レベルを指定するためのマニフェストを追加します。

以前は、InstallScript プロジェクトには常に最高権限マニフェストが含まれ、"必要実行レベル" 設定は基本の MSI プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトでしか利用できませんでした。

この強化により IOA-000028399 および IOC-000052554 が解決されました。

[ショートカット] ビューの強化

基本の MSI、InstallScript MSI、およびマージ モジュール プロジェクトで、[ショートカット] ビューが一部強化されました。

- ショートカットに使用されるアイコンを変更するには、そのショートカットを右クリックして、新しい [ショートカット アイコンの変更] コマンドをクリックします。[アイコンの変更] ダイアログ ボックスが開きます。[アイコンの変更] ダイアログ ボックスでは、ショートカットが実行時にターゲット システムで作成されるときに使用されるアイコン ファイルと関連付けられたアイコン インデックスを選択することができます。
- [ショートカット] エクスプローラに一覧表示されるショートカットは、ターゲット システムで使用されるアイコン イメージと共に表示されます。以前、[ショートカット] エクスプローラでは、アイコンがショートカットに指定されていても、すべての種類のショートカットに異なるイメージを使用されていました。

One-Click Install インストールにおける Windows Vista と Internet Explorer 7 のサポート

InstallScript プロジェクトで、One-Click Install インストールを Windows Vista システムで Internet Explorer 7 と共に使用できます。One-Click Install セットアップ プレーヤーは Setup.exe ファイルに埋め込まれた形式から、外部 .ocx ファイル形式へ変更されました。セットアップ プレーヤーは適切なコマンドラインを使って、Setup.exe ファイルのダウンロードと起動を行います。これにより、限定された権限で Windows Vista を使用しているエンドユーザーもインストールを実行できるようになります。インストールのマニフェストで指定された必要実行レベルにより昇格された権限が必要な場合、適切なユーザー アカウント制御 (UAC) プロンプトが Setup.exe ファイルが起動されたときに表示されます。

この新しい動作をサポートするため、新しい "One-Click Install の生成" 設定が [リリース] ビューの [インターネット] タブとリリース ウィザードの [インターネット オプション] パネルに追加されました。この設定で [はい] を選択すると、インストールに .ocx ファイルが含まれます。

この強化により IOC-000054462 が解決されました。

SecureCustomProperties プロパティの強化されたサポート

実行シーケンスに昇格された権限が必要なインストールのユーザー インターフェイス シーケンスにパブリック プロパティが設定されている場合、そのプロパティの値を実行シーケンスに渡すためには、プロパティが SecureCustomProperties プロパティの値としてリストされているか、または制限付きパブリック プロパティである必要があります。

InstallShield は今回より、場合によってユーザー インターフェイス シーケンスから実行シーケンスに渡す必要があるプロパティを SecureCustomProperties プロパティに自動的に追加します。

このサポートは、基本の MSI、InstallScript MSI、およびマージ モジュール プロジェクトに適用します。

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトにおける自動ダウングレード防止エントリ

エンドユーザーが製品の現在のバージョンで同製品の将来のメジャー バージョンを上書きインストールできないようにするためには、次の条件が満たされている必要があります: [アップグレード] ビューにメジャー アップグレード アイテムがあること、製品の現在のバージョンによって将来のバージョンが上書きインストールされない

ようにメジャー アップグレード アイテムが適切に構成されていること、および、製品に適切に構成、スケジュールされたタイプ 19 のカスタム アクションが含まれていること。

新しい基本の MSI または InstallScript MSI プロジェクトを作成したとき、現在のインストーラーが将来のメジャーバージョンを上書きするのを防ぐためのサポートが自動的に追加されます。

ALLUSERS と [ユーザー情報] ダイアログの変更

InstallShield 2008 より、新規の基本の MSI プロジェクトでは、デフォルトで ALLUSERS プロパティに 1 が設定されています。ほとんどのインストーラーは、マシンごとに管理者権限を使用して実行される必要があるため、これが推奨される実装です。

InstallShield 12 以前で作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 にアップグレードしたとき、ALLUSERS プロパティの値は自動的に変更されません。また、このプロパティが以前のプロジェクトで定義されていない場合も、自動的に追加されません。

また今回より、InstallShield 2008 から、デフォルトで、すべての新しい基本の MSI プロジェクトの [ユーザー情報] ダイアログは、エンドユーザーが製品をすべてのユーザーにインストールするか、または現在のユーザーのみにインストールするかを指定できるラジオ ボタンを表示しないようになっています。これは、このダイアログにおける推奨される実装です。

InstallShield 12 以前で作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 にアップグレードしたとき、[ユーザー情報] ダイアログは自動的に変更されません。

コマンドラインまたは MSBuild タスク パラメータで製品バージョンを変更する機能

-y コマンドライン パラメータが、IsCmdBld.exe と IsSaBld.exe を使用したコマンドライン ビルド用に追加されました。このパラメータを使用して、コマンドライン ビルドの製品のバージョンを指定することができます。

また、MSBuild の InstallShield タスクに、MSBuild で製品バージョンを指定することができる ProductVersion パラメータが追加されました。このプロパティは、デフォルトのターゲット ファイルが使用されたとき、プロパティ InstallShieldProductVersion として露出されます。

-y コマンドライン パラメータまたは InstallShield タスク ProductVersion パラメータは、製品バージョンのビルドバージョン (3 番目のフィールド) を増加するとき、特に便利です。

この強化により 1-4EMAC および IOC-000058042 が解決されました。

コマンドラインまたは MSBuild タスク パラメータで Windows Installer のプロパティ値をオーバーライドする機能

-z コマンドライン パラメータが、IsCmdBld.exe と IsSaBld.exe を使用したコマンドライン ビルド用に追加されました。このパラメータを使用して、Windows Installer プロパティの値をオーバーライドしたり、プロパティが存在しないとき、それを新規作成したりできます。

また、MSBuild の InstallShield タスクに新しく追加された PropertyOverrides パラメータを利用して、Windows Installer プロパティの値をオーバーライドしたり、または、そのプロパティが存在しないとき、新しく作成したりできます。このプロパティは、InstallShield タスクの PropertyOverrides プロパティに InstallShieldPropertyOverrides ItemGroup パススルーとして露出されます。

この強化により IOC-000058112 および IOC-000058510 が解決されました。

デフォルトで、IIS データに使用されている Windows Installer プロパティがレジストリに格納されます

実行時に、IIS Web サイトをインストールし、Windows Installer プロパティを使用して動的に IIS データを設定するインストールでは、プロパティとその値が次のレジストリ キーに書き込まれます：

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\現在のバージョン\Uninstall\InstallShield  
Uninstall Information\{製品コード}
```

この変更は、アンインストールと修復の実行時に、この値を使用可能にするために行われました。したがって、Web サイトがエンドユーザーによって指定されたサイト番号にインストールされた場合、Web サイトと仮想デ

レクトリはこのサイト番号から正常にアンインストールされるようになります。 IIS データをレジストリに格納しないほうが良い場合、プロジェクトで `IS_IIS_DO_NOT_USE_REG` プロパティを設定します。

この変更は、基本の MSI および InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

この強化により IOC-000054329 が解決されました。

IIS Web サーバーで CMD コマンドが SSI #exec ディレクティブに使用されるのを許可するかどうかを指定するための新しい設定

IIS Web サーバーを構成して、#exec ディレクティブの CMD コマンドがシェル コマンドの実行に使用されるのを防いだり、CMD コマンドがこのタイプのコマンドの実行に使用されることを許可することができます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\W3SVC\Parameters レジストリ キーの SSIEnableCmdDirective レジストリ値によって、CMD コマンドが許可されているかどうかは判別されます。

InstallShield の [インターネット インフォメーション サービス] ビューに、新しい "SSIEnableCmdDirective レジストリ値" 設定が追加されました。 この設定を使って、インストールがターゲット システム上で SSIEnableCmdDirective レジストリ値をどのように構成するのかを指定することができます。 また、SSIEnableCmdDirective レジストリ値を実行時に変更しないように指定することもできます (デフォルト動作)。

この強化により IOC-000054813 が解決されました。

IIS Web サイト用の新しい "ホスト ヘッダー名" 設定

[インターネット インフォメーション サービス] ビュー内の Web サイトについて、[Web サイト] タブに追加された新しい "ホスト ヘッダー名" 設定を使って、インストール中に追加された IIS Web サイトを識別するホストヘッダー名を指定することができます。 以前は、ホストヘッダー名を指定するには、同じビュー内の [詳細] タブにある ServerBindings プロパティで構成しなくてはなりませんでした。

この強化により IOC-000050316 が解決されました。

IIS Web サイトとその仮想ディレクトリを次に利用できる新しいサイト番号にインストールできる機能

InstallShield で、IIS Web サイトとその仮想ディレクトリを次に利用できる新しいサイト番号にインストールすることができます。 実装は、作業をしているプロジェクトの種類によって若干異なります。

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトでは、値が INSTALLSHIELD_IIS_NEXT_NEW_SITE_NUMBER に設定されている Windows Installer プロパティを通して、この処理を行うことができます。 [インターネット インフォメーション サービス] ビューの Web サイトの [Web サイト] タブで、"サイト番号" 設定を新しい値 (例、[MYPROPERTY]) に設定します。 プロパティは、かっこで囲み、すべて大文字でなければなりません。 次に [プロパティ マネージャ] ビューで、このプロパティを追加し、値を INSTALLSHIELD_IIS_NEXT_NEW_SITE_NUMBER に設定します。

InstallScript プロジェクトの場合、テキスト置換文字列変数を使用すると、同じ結果が得られます。 [インターネット インフォメーション サービス] ビューにある Web サイトについての [Web サイト] タブで、"サイト番号" 設定を新しい文字列変数 (例、MYPROPERTY) に設定します。 次に [一般情報] ビューの [文字列テーブル] 領域で、MYPROPERTY 文字列を追加し、値を INSTALLSHIELD_IIS_NEXT_NEW_SITE_NUMBER に設定します。

この強化により IOA-000032112 が解決されました。

新しい SQL 接続で同じ Windows Installer プロパティを共有するかどうかを指定できる機能

[オプション] ダイアログ ボックスに新しく追加された [SQL スクリプト] タブで、新規のデータベース接続がデフォルトでどのように作成されるかを指定することができます: プロジェクトの最初の接続にデフォルトで使用された Windows Installer プロパティを使用する方法と、新しい一意の Windows Installer プロパティ セットを使用する方法があります。

これは、基本の MSI および InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

この強化により IOC-000005956 が解決されました。

SQLLogin ダイアログの強化

SQLLogin ダイアログに、エンドユーザーがターゲット データベース カタログの名前を指定できるようにする新しいコントロールが追加されました。新しいコントロールのとりには [参照] ボタンもあり、エンドユーザーはこれをボタンを利用して、ターゲット データベース サーバーで提供されているデータベース カタログの一覧から選択することができます。

SQL サポートを含む基本の MSI プロジェクトを InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 にアップグレードした場合、新しいバージョンの SQLLogin ダイアログを使用するには、SQLLogin.isd ダイアログと SQLBrowse.isd ダイアログを手動でプロジェクトにインポートする必要があります。 .isd ファイルは、デフォルトで、次の場所にインストールされています: C:\Program Files\Macrovision\IS2008\Support。この更新された SQLLogin ダイアログを InstallScript プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトで使用する場合、InstallScript コード内の SQLServerSelectLogin 関数の呼び出しを新しい SQLServerSelectLogin2 の呼び出しで置き換えてください。

この強化により 1-18K8QS が解決されました。

データベース インポート ウィザードの強化

データベース インポート ウィザードに、データベース スクリプト、データベース ユーザーとデータベース ロール スクリプト、SQL Server ログイン スクリプト、オブジェクト レベル権限スクリプトなどのセキュリティ スクリプト作成オプションを指定することができる新しい [スクリプト作成詳細オプション] パネルが追加されました。

この強化により IOC-000050433 が解決されました。

インストールまたはアンインストールしない SQL 接続を指定するための新しい Windows Installer プロパティ

InstallShield に、新しい Windows Installer プロパティ

IS_SQLSERVER_CXNS_ABSENT_FROM_INSTALL のサポートが追加されました。このプロパティを使用して、インストールまたはアンインストール中にスキップする 1 つまたは複数の SQL 接続を指定することができます。1 つ以上の SQL 接続を指定するには、各接続をセミコロン (;) で区切ります。すべての SQL 接続をスキップするには、このプロパティの値を ALL に設定します。このプロパティは、SQL スクリプト作成エラーが原因で製品をアンインストールできないとき便利です。

この強化により IOC-000044731 が解決されました。

.msi ファイルから参照されていないディレクトリを削除する機能

[リリース] ビューの [ビルド] タブに、新しい "未使用のディレクトリを保持する" 設定が追加されました。この設定を使って、選択されたリリースをビルドするときに、InstallShield が .msi ファイルの Directory テーブルから未使用のディレクトリを削除するかどうかを指定することができます。デフォルト値は [いいえ] です。

この設定は、基本の MSI プロジェクト、InstallScript MSI プロジェクト、およびマージ モジュール プロジェクトで使用できます。

マージ モジュール プロジェクトに DIM リファレンスを追加する機能

以前は、基本の MSI プロジェクトでのみ提供されていた [DIM リファレンス] ビューが、マージ モジュール プロジェクトでも利用できるようになりました。[DIM リファレンス] ビューを使って、InstallShield Collaboration または InstallAnywhere Collaboration で作成された .dim ファイルをプロジェクトに追加することができます。

InstallShield では、マージ モジュールをサポートするすべてのプロジェクト タイプ (基本の MSI、InstallScript、ダイレクト MSI プロジェクトなど) に、.dim ファイルを含むマージ モジュールを追加することができます。 .dim ファイルを含むマージ モジュールは、依存関係として別のマージ モジュールに追加することもできます。

[コンポーネント サービス] ビュー内から COM+ コンポーネント ファイルのインストール先を指定する機能

[コンポーネント サービス] ビューの [インストール] タブに次の 2 つの新しい "インストール先" フィールドが追加されました: サーバー タイプのインストールのインストール先とプロキシ タイプのインストールのインストール先。これらのフィールドを使用して、選択した COM+ コンポーネント ファイルのターゲット先を指定することができます。以前、COM+ アプリケーションに関連付けられたコンポーネントのインストール先は、[コンポーネント] ビューまたは [セットアップ デザイン] ビューでしか指定できませんでした。

この強化により IOC-000038704 が解決されました。

InstallFinalize アクションの後 COM+ アプリケーションがインストールされるように指定するための新しい Windows Installer プロパティ

InstallShield に、新しい Windows Installer プロパティ IS_COMPLUS_INSTALL_AT_FINALIZE のサポートが追加されました。このプロパティを使用して、ISComponentServiceFinalize アクションによってインストールされる COM+ アプリケーションを指定できます(複数可)。ISComponentServiceFinalize アクションは InstallFinalize アクションの後に呼び出される。1 つ以上の COM+ アプリケーションを指定するには、それぞれをセミコロン (;) で区切ります。すべての COM+ アプリケーションが ISComponentServiceFinalize アクションによってインストールされるように指定するには、このプロパティの値を ALL に設定します。

Windows Installer は、InstallFinalize アクションが実行されるまで、スクリプト内のセッションで加えられた変更を GAC にコミットしないため、このプロパティは、GAC にインストールされる .NET アセンブリを含む COM+ アプリケーションをインストールするときに便利です。

この強化により IOC-000046987 が解決されました。

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトに追加された定義済みシステム検索

InstallShield に、次の新しい定義済みシステム検索が追加されました。

- Adobe Reader 7
- Adobe Reader 6
- Internet Explorer 7.0

インストールでこれらの製品のいずれかが必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンド ユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

新規および強化された Setup.exe コマンドライン パラメータと Update.exe コマンドライン パラメータ (InstallScript プロジェクト)

/installfromweb と /media_path いう 2 つの新しいコマンドライン パラメータが Setup.exe と Update.exe に導入されました。また、16 進と 10 進の値が両方 /L パラメータでサポートされるようになりました。

ダウンローダ タイプの Web リリースで増加された .cab ファイルにサポートされている場所のオプション

ダウンローダ タイプの Web リリースで、インストール時に必要に応じてダウンロードされる外部 .cab ファイルを InstallShield で作成するかどうかを指定できるようになりました。以前、ダウンローダ タイプの Web リリースでは、.cab ファイルは常に .msi パッケージにストリームされていました。

新しい外部 .cab ファイルのオプションがリリース ウィザードの [ダウンローダのオプション] パネルに追加されました。このパネルは、メディアの種類が Web で、Web タイプが [ダウンローダ] の場合、リリース ウィザードで表示されます。[ダウンローダのオプション] パネルに今回より、新しい [外部 .cab ファイルを作成する] チェック ボックスがあります。このチェック ボックスをクリアすると、動作は以前と同じになります。つまり、.cab ファイルは .msi パッケージにストリームされます。このチェック ボックスを選択すると、.cab ファ

イルをどう作成するかを指定することができます: 機能ごとに 1 つの .cab ファイル、コンポーネントごとに 1 つの .cab ファイル、または指定した特定のサイズに基づいて複数の .cab ファイル。

すべてのトランスフォームが埋め込まれるようになったダウンロードと Web タイプの Web リリースからのインストール

ダウンロード タイプの Web リリースと Web タイプの Web リリースからのインストールでは今回より、すべての .mst ファイルと .ini ファイルを Setup.exe ファイルに埋め込みます。

この強化により IOA-000029693、IOC-000052570 および IOC-000056206 が解決されました。

パッチ表示情報における強化

[識別] タブ (以前は [アンインストール] タブと呼ばれていました) では、Windows Installer 3.0 以降を実行しているシステムの [プログラムの追加と削除] でパッチについて表示される情報を指定することができます。基本の MSI または InstallScript MSI プロジェクトの [パッチのデザイン] ビューおよび QuickPatch プロジェクトの [一般情報] ビューにあるこのタブには、表示名、製造元名、サポート URL などの設定があります。[パッチのデザイン] ビューまたは QuickPatch プロジェクトでパッチ構成の最新セットアップを変更するたびに、その最新セットアップからの [プログラムの追加と削除] 情報が [識別] タブにある設定用の値として使用されます。必要に応じて、[識別] タブの値をオーバーライドすることもできます。また、[パッチのアンインストールを許可する (Windows Installer 3.0 が必要)] チェック ボックスも今回 [共通] タブに追加されました。この設定は以前、[アンインストール] タブで提供されていました。

最短初期化時間を指定できる機能

[リリース] ビューにあるリリースについての Setup.exe タブに "最短初期化時間" 設定が新しく追加されました。この設定を利用して、エンドユーザーがこのリリースを実行した時に、インストールが初期化ダイアログを表示する最短時間 (秒) を指定できます。InstallShield は、この設定で指定した値を Setup.ini ファイルの SplashTime キー名の値として使用します。

この強化により IOC-000005571 が解決されました。

InstallScript の強化機能および新機能

InstallScript 言語が一部強化されました。

アプリケーションを昇格された権限で起動するとき LaunchAppAndWait に優先する新しい LaunchApplication 関数と WaitForApplication 関数

LaunchApplication 関数は Windows API 関数 CreateProcess または Windows API 関数 ShellExecuteEx を使用して、指定されたアプリケーションを起動します。アプリケーションが起動されたあと、インストールで新しい WaitForApplication 関数を呼び出して (オプション)、アプリケーションが終了するのを待機することができます。

WaitForApplication 関数は、結果を返す前に、実行されているアプリケーション、および実行されているアプリケーションによって起動されたすべての子アプリケーション (オプション) が終了するのを待機します。

今回より、LaunchAppAndWait を呼び出すと、次が呼び出されますので注意してください:

```
LaunchApplication( szProgram, szCmdLine, "", LAAW_STARTUPINFO.wShowWindow, LAAW_PARAMETERS.nTimeOut, nOptions | LAAW_OPTION_CHANGEDIRECTORY | LAAW_OPTION_FIXUP_PROGRAM );
```

新しい LaunchApplicationInit 関数が追加されました。LaunchApplication 関数のネーミング規則に合致するために追加されたこの関数は、LaunchAppAndWaitInitStartupInfo 関数と同じ動作をします。

2 つ新しい定義済み定数が追加されました:

- LAAW_OPTION_CHANGEDIRECTORY
- LAAW_OPTION_FIXUP_PROGRAM

- LAAW_OPTION_USE_SHELLEXECUTE
- LAAW_OPTION_WAIT_INCL_CHILD

LAAW_OPTION_NO_CHANGEDIRECTORY は現在使用されていません。このパラメータを渡しても、何も効果はありません。

次のスクリプト変数もまた、追加になりました：

- LAAW_SHELLEXECUTEINFO
- LAAW_SHELLEXECUTEVERB

新しい `nWaitForInputIdleMax` 構造体メンバが `LAAW_PARAMETERS` に追加されました。このメンバは、Windows API `WaitForInputIdle` で、アプリケーションが初期化を完了するのを待機するときの最長時間 (ミリ秒) を示します。

InstallScript MSI プロジェクトで再起動マネージャ インフラストラクチャで再起動回数を最小化するための新しい `SdRMFilesInUse` ダイアログと `OnRMFilesInUse` イベント ハンドラ

`SdRMFilesInUse` 関数が新しく追加されました。この関数は、開いた状態でファイルをロックしているアプリケーションの一覧を表示するリスト ボックスを含むダイアログを表示します。ダイアログにはまた、インストーラが、1) 再起動マネージャを使用して、ファイルをロックしているアプリケーションを閉じるを試みするか、または 2) ロックされているファイルを上書きするを試みするか (結果として、インストーラの完了に再起動が必要になる可能性が高くなります) エンドユーザーが指定できる 2 つのラジオ ボタンがあります。

InstallScript MSI プロジェクトで、新しい `OnRMFilesInUse` イベント ハンドラで、新しい `SdRMFilesInUse` ダイアログが表示されます。このイベント ハンドラは、再起動マネージャが有効になっていて、Windows Installer 4.0 が `INSTALLMESSAGE_RMFILESINUSE` メッセージをインストーラに送ったときに呼び出されません。

プロジェクトごとに、追加のコンパイラ インクルード パスを指定できる機能

InstallShield の [ビルド] メニューで使用できる [設定] ダイアログ ボックスの [コンパイル/リンク] タブに、[インクルード パス] ボックスが追加されました。この [インクルード パス] ボックスを使用して、`#include` ステートメントによってメイン インストーラの `InstallScript` コードに含められたソース ファイルを探すときに InstallShield が検索するディレクトリを指定します。このボックスは、コマンドライン コンパイラ `Compile.exe` の `-i` オプションに対応しています。

この強化により 1-JEF4V が解決されました。

.NET Framework 3.0 サポートの強化

新しい `FOLDER_DOTNET_30` `InstallScript` 変数が追加されました。この変数は、.NET Framework 3.0 のパスを格納します。この変数に対応するテキスト置換は、`<FOLDER_DOTNET_30>` です。

.NET Framework 3.0 は、レジストリがインストールされていることを示すとき、レジストリに `InstallSuccess` という値を 1 という値データと共に書き込みます。予定されているこの新しいレジストリ値をサポートするために、`Is(DOTNETFRAMEWORKINSTALLED)` 関数が強化され、この関数で新しい値 `InstallSuccess` も確認されるようになりました。 `Is(DOTNETFRAMEWORKINSTALLED)` 関数はまた、.NET Framework の以前のバージョンで使用されている `Install` の値も従来どおり確認します。

`Is` 関数と使用するための 2 つの新しい定数が追加されました。

- `REGDB_KEYPATH_DOTNET_30`
- `REGDB_VALUENAME_INSTALLSUCCESS`

.NET Framework の最小サービス パック番号の存在を確認するための新しい `Is` 定数

新しい DOTNETSERVICEPACKINSTALLED 定数を Is 関数と使用して、.NET Framework の特定のサービスパック (または、より新しいバージョンのサービス パック) がインストールされているかどうかを判断します。

SQL サポート用の新規追加および更新された関数

SQL サポート用に、いくつかの InstallScript 関数が新しく追加および更新されました。

InstallScript プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクト用に、次の新しい InstallScript 関数が追加されました:

- **SQLRTInitialize2** — InstallScript プロジェクトでは SQLRT.dll ファイルをロードし、InstallScript MSI プロジェクトでは ISSQLSRV.dll ファイルをロードします。また SQLRTInitialize2 は、.dll ファイルを初期化するのに設定ファイルを使用します。この関数は SQLRTInitialize 関数に優先します。
- **SQLServerSelectLogin2** — ターゲットされたエンド ユーザーが、現在の接続に使用する SQL Server および使用するログインの資格情報を指定できるログイン ダイアログを作成します。オプションで、接続情報に関連付けられた接続名をこのダイアログに表示することもできます。またオプションで、エンドユーザーは現在の接続にどのデータベース カタログを使用するのかを指定することができます。この関数は SQLServerSelectLogin 関数に優先します。
- **SQLDatabaseBrowse** — エンド ユーザーが、指定されたデータベース サーバー上で使用できるすべてのデータベース カタログを一覧表示することができるダイアログを作成します。
- **SQLBrowse2** — エンド ユーザーが、接続に指定されたデータベース テクノロジー用にネットワーク上で利用できるすべてのデータベース サーバーのリストを表示できるようにするダイアログを作成します。この関数は SQLBrowse 関数に優先します。
- **SQLRTPutConnectionInfo2** — 接続情報 (デフォルト サーバー、デフォルト データベース カタログ、デフォルト ユーザー名、デフォルト パスワード) を設定します。この関数は SQLRTPutConnectionInfo 関数よりも優先されます。

InstallScript プロジェクト用に、次の新しい InstallScript 関数が追加されました。

- **SQLRTGetLastError2** — SQL ランタイムで最後に発生したエラーについて詳細な情報を返し、適切な SQL エラーメッセージをロードします。この関数は SQLRTGetLastError 関数よりも優先されます。
- **SQLRTGetErrorMessage** — 接続を開いているときに、SQL ランタイムで最後に発生したエラーについての説明を返します。
- **SQLRTGetScriptErrorMessage** — SQL スクリプトが実行しているときに、SQL ランタイムで最後に発生したエラーについての説明を返します。

InstallScript MSI プロジェクト用に、次の新しい InstallScript 関数が追加されました。

- **SQLRTTestConnection2** — 接続を確立します。この関数は SQLRTTestConnection 関数よりも優先されます。

次の InstallScript 関数は、以前 InstallScript プロジェクトでのみ提供されていましたが、今回より InstallScript MSI プロジェクトでも使えるようになりました:

- SQLRTGetConnections
- SQLRTGetConnectionInfo
- SQLRTPutConnectionInfo
- SQLRTGetConnectionAuthentication
- SQLRTPutConnectionAuthentication

InstallShield では、新しいバージョンに優先される関数も、従来どおりサポートされています。ただし、InstallShield 12 以前で作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 にアップグレードした場合、既存の InstallScript コードが新しい関数を使えるように自動的に更新されることはありません。

上記すべての関数、およびこれまで文書化されていなかった他の SQL 関連の関数の説明が、今回 InstallShield ヘルプ ライブラリに追加されています。

この強化により、次の問題が解決されました： IOC-00006014、IOC-000055568、IOC-000036719 および IOC-000038734。

ユーザーが管理者グループに属するかどうかを確認するための新しい **Is** 定数

新しい USER_INADMINGROUP 定数を Is 関数で使用すると、ユーザーがインストールを標準アクセス トークンを使って実行しているかどうかにかかわらず、ユーザーが管理者グループかどうかを判別することができます。

Is(USER_ADMINISTRATOR) は今回より、ユーザーが管理者グループに属していても、グループの SE_GROUP_USE_FOR_DENY_ONLY セキュリティ ID (SID) 属性が設定されている場合 (つまり、ユーザーが標準アクセス トークンを使ってインストールを実行している場合)、FALSE を返します。

この強化により IOC-000050260 が解決されました。

InstallScript を使ってロードされた **.NET** ライブラリをインストールが完了する前にアンロードできるようにする新しい関数

次の 2 つの InstallScript 関数が新しく提供されました: DotNetCoCreateObject、DotNetUnloadAppDomain。

- **DotNetCoCreateObject** 関数は、アセンブリを COM 相互運用性に登録せずに .NET アセンブリの関数を呼び出します。この関数では、.NET アセンブリがロードされ実行される .NET アプリケーションのドメインを指定することができます。DotNetCoCreateObject 関数は、CoCreateObjectDotNet 関数に類似しています。唯一異なる点は、DotNetCoCreateObject と使用すると、ロードする .NET アプリケーション ドメインを指定できるという点です。このドメインで、アセンブリが実行されます。CoCreateObjectDotNet の場合、.NET アセンブリは、インストールが完了したあと、デフォルトのアプリケーションにロードされます。このため、.NET アセンブリ ファイルは、インストールが完了するまでロックされます。
- **DotNetUnloadAppDomain** 関数は、指定された .NET アプリケーション ドメインをアンロードし、現在ロードされているアセンブリをすべて指定されたアプリケーション ドメインにリリースします。

元のインストールに **FLEXnet Connect** がないときに、アップグレード中にアップデート通知を有効にできる機能

新しい UpdateServiceOnEnabledStateChange 関数が InstallScript プロジェクトに追加されました。この関数を使って、元のベース インストールに FLEXnet Connect ファイルが含まれていない場合に、アップグレードでアップデートの通知サポートを有効にすることができます。

UpdateServiceOnEnabledStateChange への呼び出しが、OnUpdateUIBefore イベント ハンドラに追加されました。したがって、このイベントを InstallShield 12 以前のバージョンでカスタマイズしてからプロジェクトを InstallShield 2008 に移行する場合、新しいコードをイベントのカスタム オーバーライドに追加する必要があります。このコードは、自動的に追加されません。

この強化により IOC-000044350 が解決されました。

新しい **RegDBDeleteItem** 関数

RegDBDeleteItem という名前の新しい InstallScript 関数が追加されました。RegDBDeleteItem 関数は、nItem の値に従ってアプリケーションごとのパスキーまたはアプリケーション アンインストール キーの下にある値を削除します。

オブジェクトのための新しい **GetStatus** 関数

GetStatus という名前の新しい InstallScript 関数が、InstallScript オブジェクト プロジェクトで使用できるようになりました。GetStatus 関数は、オブジェクトの現在のステータス (Status.Number の現在の値) を取得します。

ListWriteToFileEx 関数とそれに関連する定数への変更

LWTF_OPTION_APPEND_TO_FILE 定数が、InstallScript 言語に追加されました。この定数を ListWriteToFileEx 関数の nOptions パラメータとして渡すことにより、既存のファイルにリストを追加することができます。

また、2 つの既存の nOptions 定数の名前が変更されました。

- LWFT_OPTION_WRITE_AS_ANSI は LWTF_OPTION_WRITE_AS_ANSI という名前になりました。
- LWFT_OPTION_WRITE_AS_UNICODE は LWTF_OPTION_WRITE_AS_UNICODE という名前になりました。

後方互換性を維持するために、上記の 2 つの LWFT_* 定数は継続して使用することができます。これらの定数の定義は、対応する新しい LWTF_* 定数と同じです。

InstallScript テキスト置換機能の拡張

今回より、InstallScript テキスト置換の関連付けを、別のテキスト置換の関連付けに埋め込むことができるようになりました。たとえば、"<MYTEXTSUB1>" を "My Text Sub 1 Value" に、"<MYTEXTSUB2>" を "Text Sub <MYTEXTSUB1> Embedded" にというように関連付けることができます。以前、ローカルのテキスト置換の関連付けがグローバルのテキスト置換の関連付けに埋め込まれた場合、ローカルのテキスト置換の関連付けは実行されませんでした。

[トップに戻る](#)

バグ修正

1-12344U (基本の MSI、InstallScript MSI)

スキーマ バージョン番号がターゲット システムのバージョン番号と同じか、それよりも小さいためにインストールの SQL スクリプトが実行されないとき、今回より Windows Installer の詳細ログでその旨が示されます。以前このシナリオでは、SQL スクリプトが実行されなかった理由が詳細ログで示されませんでした。

1-15ET25 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[一般情報] ビューの "セットアップ言語" 設定にある言語チェック ボックスを選択およびクリアしたときに特定できないエラーが発生していた問題は今回修正されました。

1-15MOJP (基本の MSI、InstallScript MSI)

DirectX 9 マージ モジュールが、Windows Server 2003 システムにインストールできるようになりました。以前、このマージ モジュールを含むインストールがこのプラットフォームで実行されたとき、失敗することがありました。

1-16HBHJ (スマート デバイス)

スマート デバイス プロジェクトで、ファイル名の文字数が合わせて 250 文字を超えるとき、複数のファイルを追加できなかった問題は今回修正されました。以前この追加を試みたとき、ファイルがプロジェクトに追加されませんでした。

1-1ASUED、IOC-000051103 (基本の MSI)

.NET Framework を含むインストールが Tablet PC で実行されているとき、セットアップの初期化中にハングしていた問題は今回修正されました。また、.NET Framework を含むインストールが Tablet PC で実行されているとき、不足しているファイルについてエラーを表示していた問題も修正されました。

1-6LZ7L (基本の MSI)

ダイアログ エディタにある Other Windows Styles パネルの DS_SYSMODAL プロパティは今回より正しく保存されます。

1-A7JBT (InstallScript)

インストーラが [プログラムの追加と削除] から実行されたとき、一時ファイル (.tmp) が削除されなかった問題は今回修正されました。

1-CW3Y5 (InstallScript)

自己展開型 .exe インストーラで、自己展開型インストーラの Disk1 フォルダに含まれている セカンダリ (子) インストーラの data#.cab ファイルを抽出できなかった問題は今回修正されました。

1-DGF7L (InstallScript)

InstallScript プロジェクトで、コンポーネントの ".NET アセンブリ" プロパティで [ローカル アセンブリ] を選択して、コンポーネントの "自己登録" プロパティで [はい] を選択したとき、アンインストールの実行中に、コンポーネント内のファイルが .NET COM Interop に適切に登録されるようになりました。以前、これらのファイルはアンインストール時に再登録されたあと、削除されていました。

1-DYE90

リリース フラグによってフィルタされたマイナー アップグレード アイテムによって、アップグレード検証エラーが発生していた問題は今回修正されました。

1-I3BDP

.NET COM Interop は今回より、パス変数で相対パスによって参照されている場所から情報を適切に抽出できるようになりました。以前、ビルド マシンからの絶対パスが間違っていた使用されていました。

1-JE6NB

GAC にインストールされた .NET DLL がメジャー アップグレード中に削除されていた問題は今回修正されました。

1-K8DDN (InstallScript)

Setup.exe が長いパスから実行されたとき、エラーが発生していた問題は今回修正されました。

1-NTJDJ (基本の MSI、InstallScript MSI)

新しい仮想ディレクトリをプロジェクトに追加したとき、ICE32 検証エラーが発生していた問題は今回修正されました。

1-T9G5H

ダイアログ スキンを使用する InstallScript オブジェクトが同じスキンを使用する InstallScript プロジェクトに追加されたとき、すべてのダイアログがそのスキンで表示されるようになりました。以前、InstallScript オブジェクトからのダイアログの一部で、スキンが部分的にしか表示されていませんでした。

1-W3XZ7

今回より、Web サイトについて [インターネット インフォメーション サービス] ビューの [詳細] タブにある ServerBindings プロパティの値を設定することにより、複数の IIS ホスト ヘッダー名を Web サイトに構成することができます。各 TCP ポート番号とホスト ヘッダー名の組み合わせはセミコロン (;) を使って区切ります。たとえば、TCP ポート 84 と 85 のホスト ヘッダー名を www.mycompany.com に設定する場合、ServerBindings プロパティの値を、次の文字列を設定します (引用符は除きます):
":84:www.mycompany.com::85:www.mycompany.com"

1-X5409

InstallShield X または InstallShield Developer 8 の日本語版からプロジェクトを移行したときに、警告 - 6034 が発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000025542 (InstallScript)

小さい初期化ダイアログと言語ダイアログが使用されたとき、初期化ダイアログが言語ダイアログで選択された言語で表示されるようになりました。以前、初期化ダイアログはデフォルト言語で表示されていました。

IOA-000025930 (InstallScript)

Windows Installer 値の引用符は今回より、InstallScript レジストリ文字列値で使用されません。

IOA-000025993

ビルド中のリリースにセットアップ前提条件が含まれているとき、リリース ウィザードに [セットアップ前提条件] パネルが含まれます。リリース フラグがセットアップ前提条件に割り当てられていて、異なるリリース フラグが [フィルタの設定] パネルで選択されていることによりセットアップ前提条件が含まれないとき、このセットアップ前提条件はリリースに含まれず、[セットアップ前提条件] パネルはリリース ウィザードで表示されません。以前、前提条件が [フィルタの設定] パネルで選択されたフィルタ条件に基づいて除外されなくてはならないときも、[セットアップ前提条件] パネルが表示されていました。

リリース フラグがセットアップ前提条件に割り当てられていて、リリース ウィザードの [フィルタの設定] パネルでリリース フラグが何も指定されていないとき、セットアップ前提条件はリリースに含まれますので注意してください。フラグが付いていないセットアップ前提条件のみを含める場合、存在しないフラグを指定します。これにより、フラグが付いていないセットアップ前提条件だけがリリースに組み込まれます。

IOA-000026112 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、[カスタム アクションとシーケンス] ビューで、InstallScript カスタム アクションの "関数名" 設定で InstallScript 関数を選択して、それから InstallScript コードでその関数の名前を変更すると、"関数名" 設定の名前がすぐに更新されます。

IOA-000026128

InstallShield の評価版で作成されたインストーラで、Windows Installer 3.1 と .NET Framework 2.0 がインストールされたときに 4121 エラーが発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000026463

記号を含むレジストリ キー文字列値を追加したときに、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回解決されました。

IOA-000026480 (スタンドアロン ビルド)

-n オプションが InstallScript MSI プロジェクトのビルドに使用されたとき、スタンドアロン ビルドでエラー - 7132 が発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000026719、IOC-000051221、IOA-000028637 (スタンドアロン ビルド)

ポルトガル語 (ブラジル) を InstallScript プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトに含めてから、そのプロジェクトをスタンドアロン ビルドでビルドしたとき、ビルド エラー -7132 が発生していた問題は今回修正されました。以前、ポルトガル語 (ブラジル) ファイルが redist\0416 フォルダから不足していたため、このエラーが発生していました。

IOA-000026906 (QuickPatch)

COM 関連のテーブルが不足しているベースからビルドされた QuickPatch プロジェクトでビルド エラー -4344、-4346、および -4347 が発生していた問題は、今回修正されました。

IOA-000026945 (QuickPatch)

[編集] メニューで [文字列 ID を検索] コマンドが QuickPatch プロジェクトで無効にされました。これは、文字列 ID がこのプロジェクト タイプに適用できないためです。

IOA-000027144、IOC-000058252

InstallScript ファイル (.rul) と InstallScript ヘッダー ファイル (.h) をローカル リポジトリにパブリッシュしたとき、すべてのファイルを InstallShield プロジェクトにインポートするファイルとして選択できるようになりました。以前、1 種類のファイルしか (.rul または .h) インポートに選択できませんでした。

IOA-000027145 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、カスタム アクションをシーケンス番号 -4 と 4 の間に挿入したとき、アクションが同じシーケンス番号を持たないように、適宜シーケンス番号が再割り当てされます。以前、重複するシーケンス番号が割り当てられていました。

IOA-000027149、IOC-000052139 (InstallScript MSI)

ビルボードがインストールに含まれているとき、最初のファイルがターゲット マシンに転送される直前に、最初のビルボードの表示が開始されます。以前、ビルボードはファイルの転送が終了するまで表示されませんでした。

IOA-000027194

InstallShield は今回より、特定の DLL から COM 情報を抽出します。

IOA-000027255

特定のコンポーネントを追加またはクリックしたとき、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回解決されました。以前、InstallShield の以前のバージョンから移行されたプロジェクトで、この問題が発生していました。

IOA-000027301

Windows Installer 2.0、3.0 および 4.0 エラーのランタイム文字列 (IDS_ERROR_1329 から IDS_ERROR_3002 までの文字列) が、すべてのサポートされているランタイム言語に翻訳されました。

IOA-000027674

アップグレード検証を実行したときに、未処理の例外が Val0004 または Val0010 で発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000027887、IOC-000039595 (基本の MSI)

応答トランスフォームが作成されたとき、ISSETUPFILESCOMPLETE プロパティが作成された .mst ファイルに含まれていた問題は今回修正されました。

IOA-000027908

XML ファイルの変更データがあるコンポーネントを別のプロジェクトにエクスポートしたとき、エクスポートされたコンポーネントにすべての XML データが含まれるようになりました。以前、XML ファイル名を除き、すべての XML データが不足していました。

IOA-000028046

プロジェクト アシスタントの [インストールのビルド] ページで、単一 .msi パッケージのビルドとデジタル署名が可能になりました。以前、特定の条件で、ビルド エラー -1027 が発生していました。

IOA-000028121 (セットアップ前提条件エディタ)

セットアップ前提条件エディタで、空白の依存関係エントリを前提条件に追加することができなくなりました。以前、この操作は許可されていました。空白の依存関係エントリがある前提条件があるプロジェクトに追加されて、そのプロジェクトがビルドされたとき、「前提条件の依存関係が見つかりません」というエラーが表示されていました。

IOA-000028242

2 つのダイナミック ファイル リンクを同じコンポーネントに含めて、それぞれのリンクが同じ名前のファイルを持つとき、InstallShield がクラッシュしていた問題は修正されました。

IOA-000028287 (セットアップ前提条件エディタ)

セットアップ前提条件エディタの [ファイルの存在の有無] という条件タイプでパスまたはファイル名が途中で切断されていた問題は今回修正されました。

IOA-000028560 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[アップグレード] ビューでメジャー アップグレード アイテムを作成して、[初期のバージョン] オプションを選択したとき、"最大バージョン" フィールドに *****ALL_VERSIONS***** が適切に設定されるようになりました。以前、ある条件下で、"最大バージョン" フィールドに現在のバージョン番号が設定されていました。

IOA-000028566 (InstallScript、InstallScript MSI)

[ダイアログ] ビューで、ダイアログの **Text Style** プロパティを変更できるようになりました。以前、このプロパティの変更を試みたとき、「リソース ID は InstallShield 定義済みダイアログに予約されています。」というテキストがメッセージ ボックスで表示されていました。

IOA-000028705 (ClickOnce)

ClickOnce デプロイメント プロジェクトに、ファイル名に 1 つ以上のピリオドがあるプライマリ アプリケーション アセンブリが含まれているとき、InstallShield がビルド エラーを生成していた問題は今回修正されました。

IOA-000028846

[セットアップのデザイン] ビューまたは [機能] ビューで、キーボード ショートカットを使って機能を上下または左右に移動したとき、機能がフォーカスを失っていた問題は今回修正されました。この修正により、キーボードのショートカットを再度使用するとき、マウスまたは TAB キーで機能を再度選択する必要がなくなりました。以前、機能はフォーカスを失っていました。

IOA-000029531 (InstallScript)

定義済みの InstallShield コマンドライン パラメータが CMDLINE にコピーされなくなりました。以前、一部の定義済みパラメータが Setup.ini またはリリース ウィザードに追加されたとき、それらが CMDLINE にコピーされていました。

IOA-000029633

ネイティブ イメージ キャッシュにインストールされたアセンブリが修復またはアップグレードの実行中に削除されていた問題は今回修正されました。

IOA-000029766

非表示のターゲット オプションがある、または "ターミナル サーバーで使用可能" インスクリプト実行オプションの 1 つで構成されているカスタム アクションで ICE03 検証エラーが発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000030113 (InstallScript MSI)

名前が変更された InstallScript MSI インストールのセットアップ ランチャが、アンインストール用に適切にキャッシュされるようになりました。

IOA-000030242

[リリース] ビューの ".NET 言語パック" 設定で簡体字中国語と繁体字中国語が選択されたとき、インストールで、いずれか片方がターゲット マシンにある場合、適切な中国語言語パック (簡体または繁体) がインストールされます。以前、両方の言語パックがインストールされていました。

IOA-000030461 (InstallScript、InstallScript MSI)

[ダイアログ] ビューで、ダイアログにある ComboBox コントロールの Sorted プロパティを True に設定すると、アイテムがアルファベット順に並べ替えられます。False に設定すると、アイテムは並べ替えられません。以前、反対の動作が発生していました。

IOA-000030497、IOC-000055728 (マージ モジュール)

マージ モジュール プロジェクトのカスタム アクション ウィザードで、InstallScript カスタム アクションを作成できるようになりました。以前、カスタム アクション ウィザードの [アクションの種類] パネルにある [種類] ドロップダウン リストに [InstallScript コードを実行する] オプションがありませんでした。

IOA-000030671 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトの Setup Initialization ダイアログでコントロールを追加してから削除したとき、実行時エラー 2854 が発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000031101

InstallScript MSI リリースで、[リリース] ビューにある "[追加/削除] パネル エントリを隠す" 設定で [はい] を選択すると、製品が [プログラムの追加と削除] で表示されません。以前、製品のエントリが [プログラムの追加と削除] で表示されていました。

IOA-000031487

ISICE07 が拡張されました。今回より、以前検証していたアイテムに加え、複数の機能に関連付けられているコンポーネントが次のテーブルのどれにも参照がないことも検証します: Class、Extension、MsiAssembly、PublishComponent、TypeLib。コンポーネントがこれらの基準を満たさないとき、ISICE07 がエラーを表示します。

IOB-000047970

.NET 2.0 アセンブリをスキャンする依存関係は、今回より、GAC でのみ提供されているアセンブリを検索しません。

IOB-000048151

日本語版の InstallShield で、InstallScript ビュー内から F1 キーを押したとき、InstallShield ヘルプ ライブラリのトピックが適切に表示されるようになりました。

IOB-000048283、IOC-000047823 (InstallScript)

オブジェクトに "新規オブジェクトの登録" コマンドを選択したとき、オブジェクトが正しく登録され、レジストリのパスにオブジェクトのスクリプト ファイルが設定されます。"新規オブジェクトの登録" コマンドを選択するには、[オブジェクト] ビューでオブジェクトを右クリックし、[詳細] をポイントしてから、[新規オブジェクトの登録] をクリックします。

また、レガシー InstallScript オブジェクトが InstallScript プロジェクトに追加されたとき、[セットアップのデザイン] ビューと [機能] ビューで、オブジェクトについての適切な情報が表示されます。以前、これらのいずれかのビューでレガシーまたはカスタム オブジェクトを選択したとき、そのオブジェクトが存在するときも、オブジェクトが不足していると通知されていました。

IOB-000048498 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトで、UNINSTALLKEY スクリプト変数のカスタマイズが適切に行えるようになりました。以前、この変数を変更したとき、いろいろな問題が発生していました。この変数は、InstallScript プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトの両方で矛盾なく適切に処理されます。

IOB-000048552 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトの [ショートカット] ビューでショートカットのホット キーを設定したとき、ショートカットのホット キーがターゲット システムで適切に構成されなかった問題は今回修正されました。以前、ホット キーに間違っただけのキーが設定されていました。

IOC-000005491 (基本の MSI)

内部ダイアログの InstallShield ブランディングのとなりにあった水平線が、InstallShield ブランディングまで引き伸ばされました。以前、これらのダイアログでは、ブランドと水平線の間に空白がありました。

また今回より、InstallShield ブランディングが [デザイン] ビューのダイアログ プレビューに追加されました。以前、ブランディングはプレビューで表示されませんでした。

IOC-000005996 (InstallScript MSI)

InstallScript MSI パッチは今回より、パッチのインストール実行シーケンスでパッチの実行中に更新されたサポート ファイルを抽出します。ベースのサポート ファイルは UI シーケンス中のみ提供されますので注意してください。

IOC-000006013 (InstallScript)

SQLRT.dll が実行時にロードできなかったとき、InstallScript インストールで、この問題を通知するメッセージが表示されるようになりました。メッセージでは、SQLRT.dll のロード中にエラーが発生しましたと表示されます。このファイルは InstallShield SQL サポートのためにロードする必要があります。以前、SQLRT.dll がロードできなかったとき、InstallScript ランタイムで、「MDAC をインストールする必要があります」というエラー メッセージが表示されていました。

IOC-000033724

ISWiSQLConnections オートメーション コレクションの Item プロパティを呼び出したとき、例外が発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000034870

QuickPatch プロジェクトでは今回より、JScript カスタム アクションが [一般情報] ビューの [カスタム アクション] 領域で表示されます。

IOC-000036786 (基本の MSI)

デフォルトで SQLLogin と SQLBrowse ダイアログが、すべての新しい基本の MSI プロジェクトに自動的に含まれていた問題が今回修正され、これにより、ICE17 検証警告が発生しなくなりました。

これらのダイアログは、SQL 接続を [SQL スクリプト] ビューに追加したとき、基本の MSI プロジェクトに追加されます。この操作を行うと、ICE17 検証警告が出されますが、回避することはできません。(ICE17 は、ListBox テーブルと ComboBox テーブルにプレースホルダー エントリを追加することで解決することができます。ただし、SQL ランタイムは、ネットワークからクエリされたデータベース サーバー名を追加する前に、プログラムを使って既存のエントリをすべてリスト ボックス コントロールとコンボ ボックス コントロールから削除しますが、データベース サーバーがないとき、コントロールにはプレースホルダー エントリが表示されます。) したがって、ICE17 の SQL ダイアログについての警告は無視する必要があります。

IOC-000038732

Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine (MSDE 2000) SP3a セットアップ前提条件は今回より、正しいバージョンの helper.exe をダウンロードします。以前、この前提条件は MSDE サーバーを起動する機能を持たない以前のバージョンをダウンロードしていました。

IOC-000040651 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield から InstallShield 2008 に移行したとき、コンポーネントの "インストール" 設定で 64 ビット ディレクトリを選択できるようになりました。以前、InstallShield の一部のバージョンに移行されたプロジェクトでは、64 ビットのディレクトリが表示されませんでした。このため、これらのインストール先をダイレクト エディタを使って手動で設定する必要がありました。

IOC-000041258

セットアップ前提条件コマンドの環境変数が解決されるようになりました。今回より、環境変数の動作は、cmd.exe の動作にほとんど一致します。

IOC-000042357 (InstallScript MSI)

InstallScript MSI リリースが複数のディスクに分割されたとき、InstallShield は CloneSetupExe=Y を Seup.ini ファイルに追加します。実行時に、インストールのクローンがターゲット システムの一時フォルダに配置され、インストールがその場所から実行されます。以前、インストールはリムーバル メディアから起動されました。

IOC-000042621 (InstallScript、InstallScript MSI)

さまざまな InstallScript ダイアログにある szTitle フィールドで、改行文字 (\n) を含むタイトルが適切に表示されるようになりました。以前、改行文字のあとに指定されたテキストはタイトルに含まれませんでした。

IOC-000043287 (基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI)

エンドユーザーが、インストールで [インターネット インフォメーション サービス] ビューで構成された IIS 仮想ディレクトリがインストールされた製品をアンインストールするとき、IIS がマシンにインストールされている必要があった問題は今回修正されました。以前、アンインストールは失敗し、エンドユーザーに製品のアンインストールに IIS が必要だと通知するエラーが表示されていました。

IOC-000045152 (基本の MSI、InstallScript MSI)

SQL サポートを含むインストールで、エンドユーザーが SQLLogin ダイアログの "サーバー名" フィールドを空白にしたまま、[次へ] ボタンをクリックしたとき、SQL 接続エラーが表示されます。

IOC-000045403

MSBuild サポートは今回より、名前にドットが使われているプロジェクトからのプロジェクト出力グループを解決できるようになりました。

IOC-000046709

SYSINFO.WINNT.bWinXP は今回より、Windows XP x64 システムで期待されているように TRUE に評価されます。以前、FALSE に評価されていました。

IOC-000046745 (基本の MSI)

言語の選択ダイアログは、スモール アップグレードまたはマイナー アップグレードで表示されなくなりました。これは、このタイプのアップグレードで言語の変更が不可能なためです。新しいトランスフォーム (.mst ファイル) はメンテナンス中に許可されないため、これは Windows Installer の制限事項です。

IOC-000047019

今回より、DLL から COM データを抽出すると、その COM データはコンポーネントのキー ファイル インストール先の相対パスに抽出されます。以前、インストール ソースへのリテラル パスが使用されていました。

IOC-000047144 (InstallScript MSI)

InstallScript MSI インストールが、ユーザーごとのインストールとして実行されたときも、適切に動作するようになりました。 アンインストール情報は、HKEY_CURRENT_USER の下に格納され、キャッシュされた Disk1 フォルダは PROGRAMFILES の場所ではなく、ユーザーごとの場所にインストールされます。 これにより、管理者権限がないエンドユーザーもユーザーごとの InstallScript MSI インストールをインストールできるようになります。

以前、ユーザーごとのインストールでは、ユーザーが管理者の場合、アンインストール情報は HKEY_CURRENT_USER ではなく HKEY_LOCAL_MACHINE の下に格納されていました。 また、ユーザーが管理者の場合、キャッシュされた Disk1 フォルダは PROGRAMFILES の場所にインストールされていました。

IOC-000047213

今回より、[リリース] ビューの "キャッシュ パス" 設定における圧縮リリースのためのデフォルト値が [[LocalAppDataFolder]Downloaded インストール] に設定されています。 以前のデフォルト値 [[WindowsFolder]Downloaded インストール] は、ロックされたシステムで使用できないことがあります。 プロジェクトを InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 に移行したとき、"キャッシュ パス" 設定は自動的に変更されません。 このため、この値を変更したほうが良い場合があります。 "キャッシュ パス" 設定を変更するには、リリース ウィザードの [ローカル マシン] パネルを利用します。

エンドユーザーがキャッシュ パスへのアクセス権をもたないとき、インストールは失敗します。

IOC-000047728

複数のコンポーネントに存在するレジストリ データを確認するために [レジストリ] ビューのビュー フィルタを利用したとき (機能の 1 つまたは [すべてのアプリケーション データ] オプション)、該当するレジストリ データがすべて表示されるようになりました。 以前、2 つの異なるコンポーネントに同じレジストリ キーが存在し、それぞれが異なる値を持つとき、1 つの値のみが表示されていました。

IOC-000050210 (基本の MSI、InstallScript MSI)

ビルド時にクライアント マシンで COM+ アプリケーションに関連付けられているコンポーネントのインストール先を変更してから、COM+ 属性をリフレッシュしたとき、インストール先が元のインストールに再設定されていた問題は今回修正されました。

IOC-000050279 (基本の MSI)

InstallWelcome ダイアログでビットマップの削除またはサイズの変更を行ったとき、InstallShield のブランディングでダイアログ上にある線がオーバーラップしていた問題は今回修正されました。

IOC-000050283 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトで、レジストリ セットの名前が変更されたあと、コピーアンドペースト機能が正しく動作しなかった問題は今回修正されました。

IOC-000050312 (基本の MSI、InstallScript MSI)

カスタム アクションが InstallFinalize の後にシーケンスされたとき、ISSetupFilesCleanup アクションをインストール実行シーケンスの最後のアクションとして挿入できなかった問題は今回修正されました。

IOC-000050358

データベース インポート ウィザードが、ログイン ID に関連付けられているデフォルト ユーザーではないユーザーが所有するテーブルからレコードをインポートできなかった問題は今回修正されました。

IOC-000050404 (InstallScript)

InstallScript プロジェクトで、インストールまたはアンインストールにスケジュールされているスクリプトの 1 つが失敗したとき、ロールバックにスケジュールされている SQL スクリプトが実行されます。

IOC-000050415

読み取り専用のプロジェクトを閉じて、それを元のファイル名で保存しようとしたとき、InstallShield が保存する前に終了していた問題は今回修正されました。今回より、InstallShield は、別のファイル名を指定することができる [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスを表示します。

IOC-000050476

InstallShield で作成されたインストールでは今回より、Microsoft SQL Server から返された NativeError コード 5701 ("データベース コンテキストは xxxxx に変更されました") が表示されません。マイクロソフトは、これはエラーではなく、情報メッセージだと説明しています。

IOC-000050515 (基本の MSI、InstallScript MSI)

新しい基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトで、ResolveSource 標準アクションがインストール実行シーケンスに追加されました。CostInitialize アクションの後にスクリプトされています。このアクションは初回インストールで実行されますが、メンテナンスまたはパッチでは実行されません。このアクションは、インストール UI シーケンスでも続けて提供されています。

InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 に移行したプロジェクトで、ResolveSource アクションをインストール実行シーケンスで実行する場合、アクションをこのシーケンスに手動で挿入する必要があります。

IOC-000050518 (InstallScript MSI)

再起動が必要な InstallScript MSI インストールが、管理者以外のユーザーによって実行されたとき、再起動のあと実行に失敗していた問題は今回修正されました。

IOC-000050548 (基本の MSI)

今回より、ダイアログ コントロールの Width プロパティの Value フィールドを、Value フィールドをクリックして編集できるようになりました。以前、別のプロパティをまずクリックする必要がありました。

IOC-000050555 (Web)

Web プロジェクトは今回より、セットアップ前提条件の .msi パッケージを 1 回のみダウンロードします。以前、パッケージは、ある条件で 2 回ダウンロードされていました。

IOC-000050713

[ファイルとフォルダ] ビューで、角かっこを含むフォルダ名が適切に表示されるようになりました。以前、角かっこがフォルダ名の一部として使用されたとき、かっこ、またはそのかっこに続く文字が表示されませんでした。

IOC-000050721 (InstallScript)

InstallScript インストールは今回より、Update Service のサポート ファイルのインストール中に、FLEXnet Connect ファイルを登録します。

IOC-000050724

ビルド時に COM 抽出が実行されているとき、不足しているそれぞれの依存関係に対してメッセージ ボックスが表示されていた問題は今回修正されました。

IOC-000050754

オートメーション インターフェイスの ExportStrings メソッドは今回より、Unicode 形式ファイルと ASCII 形式ファイルを両方作成します。以前、ASCII ファイルのみが作成されていました。

IOC-000050915

[インターネット インフォメーション サービス] ビューで、アプリケーション プールのユーザー パスワードに、8 番目の文字に数値 7 がある文字列を設定したとき、7 が実行時に切断されていた問題は今回修正されました。

IOC-000050712 (InstallScript、InstallScript MSI)

SYSINFO.nSystemLangID、SYSINFO.nUserLangID および SYSINFO.nSystemDefaultUILangID は今回より、すべてのシステムで正しい値に設定されます。以前、値の LOWORD は正しかったですが、値の HIWORD には間違った値が含まれていることがありました。GetUserDefaultLangID が InstallScript から直接呼び出されたときも、同じ動作が発生しました。

IOC-000050972 (InstallScript、InstallScript MSI)

大きなドメインでユーザーを参照したとき、インストーラーがクラッシュしていた問題は今回修正されました。

IOC-000051113 (基本の MSI、InstallScript MSI)

"ビルド時に .NET をスキャン" オプションが最低 1 つのコンポーネントに使用されたとき、ビルド エラーが発生した問題は、今回修正されました。以前、あるケースでビルド エラーが発生したり、InstallShield がクラッシュしたりしていました。インストーラーがスタンドアロン ビルドまたはコマンドラインからビルド中に、あるケースでビルド プロセスが突然終了していましたが、この問題は修正されました。

IOC-000051200

[キー ファイルの COM データを抽出する] オプションを選択すると、コンポーネントの詳細設定にある [COM 登録] 領域に ProgID が挿入されます。以前、ProgID は一部のファイルに追加されませんでした。

IOC-000051252 (InstallScript)

-uninst パラメータが指定されたとき、InstallScript インストーラーの進捗状況ダイアログで IFX_PRODUCT_DISPLAYNAME の値が表示されるようになりました。以前、IFX_PRODUCT_DISPLAYNAME の値の代わりに %P が表示されていました。

IOC-000051268 (基本の MSI)

ターゲット システムで実行されているオペレーティング システムの言語のためのランタイム文字列がインストーラーに含まれていないとき、[セットアップ言語の選択] ダイアログで文字化けが発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000051283

コンポーネントをコピーアンドペーストしたとき、それに関連付けられているデータ (ファイル、レジストリ エントリ、COM データなど) が新しいコンポーネントに移動されなくなりました。今回より、新しいコンポーネントに正しくコピーされます。また、キー パスが新しいコンポーネントにコピーされていた問題も修正されました。以前、これにより、ICE02 検証エラーが発生していました。

IOC-000051522 (基本の MSI、InstallScript MSI)

Standard DLL カスタム アクションは、必要なとき、ファイルキーの変わりにファイル パスを参照します。これにより、標準 DLL カスタム アクションが、ファイル名が重複する (したがって、異なるのはファイルキー) 場合も機能するようになり、手動で ISDLLWrapper テーブルの Target 列を変更する必要がなくなります。

IOC-000051630

テキスト ファイルを読み込む InstallScript 関数 (例、ListReadFromFile、GetLine) が、ファイルで行を分割するキャリッジ リターン (\r) なしに、改行文字 (\n) のみが使用されているとき、ファイルを適切に読み取らなかった問題は今回修正されました。

IOC-000051685

インストーラーのビルド時に、アイコンが .dll または .exe ファイルから抽出されたとき、ショートカット アイコンが今回より、Windows Vista システムで表示されます。また、シールド オーバレイはアイコンで表示されなくなりました。

IOC-000051711

RegisterProgIdInfo アクションが、対応する Class 情報がないとき、ProgId 情報を登録できなかった問題は今回修正されました。以前 ProgID 情報は登録されませんでした。したがって、ファイルの拡張子は設定されましたが、文書のアイコンと説明は設定されませんでした。

IOC-000051843 (InstallScript)

ルーマニア語が、使用できる言語のリストに適切に表示されます。

IOC-000052411 (InstallScript MSI)

エンドユーザーが InstallScript MSI インストールを CD-ROM から実行して、製品をあとでアンインストールしたとき、実行時エラー 1155 ("ファイル C:\Program Files\InstallShield Installation Information\{GUID} が見つかりません") が発生していた問題は修正されました。

IOC-000052639 (InstallScript)

インストールが日本語 OS があるマシン上で実行されたとき、日本語文字列がインストール ダイアログで疑問符 (?) として表示されていた問題は今回修正されました。以前、これは、日本語コード ページがインストールされている英語の OS を実行しているシステム上で、ダイアログを InstallShield で変更したときに発生していました。

IOC-000052746 (InstallScript)

日本語コード ページがインストールされている英語の OS を実行しているマシン上で、日本語文字列が InstallShield の [文字列テーブル] エディタで編集されたときに、インストールのダイアログで正しく表示されなかった問題は今回修正されました。以前、ダイアログの日本語文字列で文字化けが発生していました。

IOC-000052826 (InstallScript MSI)

エンドユーザーが、複数の CD に分割された InstallScript MSI インストールを実行してから、あとで製品を [プログラムの追加と削除] から変更または削除しようと試みたときエラーが発生していましたが、この問題は修正されました。以前、このシナリオで、次のエラー メッセージが表示されていました:"セットアップ初期化ファイルの読み取りエラー"。このエラーは、.ini ファイルと ISSetup.dll がターゲット システムのキャッシュ場所になかったために発生していました。

IOC-000054829

InstallShield を使用して COM サーバーから COM 情報を抽出すると、データは TypeLib テーブルではなく Registry テーブルに書き込まれます。マイクロソフト社は TypeLib テーブルを使用しないことを強く推奨しています。詳しくは、MSDN Web サイトの [TypeLib Table](#) トピックを参照してください。

[トップに戻る](#)

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 2000 SP3 以降

Windows XP

Windows Server 2003

Windows Vista

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) の要件

オペレーティング システム

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません。

Windows 2000

Windows XP

Windows Server 2003

Windows Vista

ターゲット システム (モバイル デバイス) の要件

InstallShield では、ActiveSync や他のデスクトップ コンポーネントを使用しない、デバイスへ直接行うインストールがサポートされています。

InstallShield では、モバイル デバイス インストールをデスクトップ インストールへ追加することもできます。

Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です。

- Windows Embedded CE 6.x
- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11

- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

InstallShield は、この一覧にないプラットフォームもサポートしますが、条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM920
- ARM820
- ARM720
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH4
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH3
- i686
- i586
- i486
- MIPS R4000
- MIPS R3000
- MIPS R2000
- SHx SH4
- SHx SH3
- StrongARM-XScale

Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです。

- Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x デバイスには ActiveSync 4.x が必要)
- 管理者権限

Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

[トップに戻る](#)

既知の問題

既知の問題の一覧は、ナレッジベースの記事「[Q112997](#)」を参照してください。

[トップに戻る](#)